

## 協同総合研究所、1993年度の研究活動について

手島 繁一（常任理事・法政大学講師）

協同総合研究所では第3回会員総会後、7月17日に第1回常任理事会、8月24日に研究委員会をそれぞれ開き、93年度の研究活動について総会決定にもとずいて具体的にどのように進めていくかを議論しました。会議での議論と一応の合意点を紹介しますが、なお検討の余地があるもので、会員の皆さんが積極的な提案や意見を寄せられるよう期待しています。

### 基本研究会の年間計画について

総会では年間テーマを「新しい協同組合—その特質と発展方向」と決定しました。このテーマをどう掘り下げていくかをめぐって、およそ次のような方向が確認されました。

「新しい協同組合」論はベーク報告の一つの核心ですが、具体的な日本における実践例のなかにその意味を探っていくことが、昨年のテーマ設定との接続の関係上必要になっています。その場合、「新しい協同組合」の範囲としては、「地域に根ざす」だけでなく「地域に起こる」協同組合、あるいは必ずしも協同組合という形態をとってなくても地域で働いて生きていくためのさまざまな協同の実践活動なども含めて広く考える必要があるでしょう。

総会後の動きを見ても、人々の労働や生活上の切実な要求にもとづいたさまざまな協同の実践が報告されています。島根県出雲市の寿園は、従来の「公営・大規模・郊外隔離立地型」施設による高齢者福祉のあり方に疑問をもった福祉関係労働者や住民が新たに設立し、運営する小規模な高齢者施設ですが、居住地近接・協同組合方式で経営的にも安定し、またサービスの内容も高く、自治体からも研修を受け入れるほどで、当然補助金も得ていると、飯島信吾会員（C&C代表）が報告しています。

92年6月の京都での協同集会のメイン会場の壇上にあった二つの「大だこ」を覚えているでしょうか。あの「大だこ」をつくったのは、京都西陣地域の学童クラブ「虹の子」の子供達でした。「虹の子」の10周年を記念して、このほど『ぼくら遊びのプロなんや—子育て協同組合の挑戦』（同クラブ編、かもがわ出版刊）という本が出版されましたが、この運動に関係する藤岡惇会員（立命館大学教授）は、11年間の「子育て協同組合」の実践から、「子育て協同組合という形態を追求することは、子育てを支援するうえでの国と京都市の公的な責任を軽視したり、免除したりすることを意味しません。むしろ逆で、このような協同事業への公的助成をもっと強力に要求していくきっかけにすべきだ」と主張しています。そして、「このような公的資金を引き出して活動する子育て協同組合が多彩に展開し、「協同組合部門と公的部門とが、地域住民の支持を求めてよい意味で競い合う関係にたつことが、健全な社会の一つの条件だ」とする立場から、「虹の子」の未来や名古屋の子育てコープなどの子育て・教育分野の協同の広がり期待を表明しています。

これらの新しい協同組合や協同運動は、地域の人々の多様で切実な要求に基づいて、その要求を解決するために必要な資源（人的、経済的など）を自らも持ち寄りながら、同時にその社会的あるいは公共的な意義を明らかにしつつ、地域における新たな「公共性」の構築の有力な担い手としての自覚をもって活動しています。したがって、ここでは従来の働き方、管理や運営のあり方、生産や消費、生活のあり方などを問い直すとともに、新しい考え方に基づく協同の実践が試みられています。これらのなかから「新しい協同組合」の特質をどうつかむか、またどのように評価し発展させていくのかなどが研究会の一つの重要なテーマ

になるでしょう。

もちろんこのことは既存の協同組合運動の意義を軽視するものではなく、それらの活動の中での新しい動向にも十分配慮を払いつつ、協同組合間のネットワーク形成の課題も基本研究会の重要なテーマです。

とりあえず、以下の分野や領域毎に「新しい協同組合」の実践報告を、毎回の基本研究会で位置づけ、報告と討論を行っていくことが確認されました。①福祉、②農業・林業・水産業、③教育、④ゴミ・リサイクル・環境問題、⑤労働、⑥協同組合の法制問題、⑦協同組合と企業形態（必ずしもこの順番通りに行うとは限りません）。

基本研究会の開催頻度は、ほぼ月一回のペースで考えています。

基本研究会の開催地は東京中心にならざるをえないとしても、今年度は是非地方での開催を実現したいと思います。地方在住会員の皆さんが、希望するテーマでの地方開催に積極的に手を挙げてくださるようお願いする次第です。

## 課題別研究について

基本研究会でも取り上げられる各領域や分野における問題点をさらに具体的、実践的に深めるために、課題別の研究活動を重視したいと思います。

### ①労働運動、労働組合運動と協同組合

7月25、26日、岩手県花巻市において、日本労働者協同組合連合会と研究所の共催で「労働組合問題全国交流集会」が開かれました。この2年間事業団・労働者協同組合連合会の内部で検討されて来た「労働者協同組合と労働組合」についての答申をもとに、活発な討論が交わされました。この答申と討論については、近日『報告・資料集』を発行します。

「労働組合運動と『協同』」研究部会は、研究所発足以来持続している部会ですが、9月3日、大分自交総連の高野修会員を迎えて第15回目の研究会を行いました。11月4日には、ネスル日本労働組合の中川謙書記長（会員）が、10年余にわたる争議のなかから労働者協同組合的展開の必要

性を痛感してきた経験を中心に報告することになっています。部会はこれまで労働組合運動と協同組合との関係いかんという視点から事例発掘を主として研究活動の中心に据えてきましたが、そろそろ出揃った論点を整理しながら、印刷物にまとめたり、共通する論題でのシンポジウムを行ったりすることも考えています。

### ②労働者協同組合の現状と理論についての学習活動の推進

この間、黒川理事長の著作『いまなぜ労働者協同組合なのか』（大月書店）をもとにした学習会が、愛知高齢者協同組合や関西共同印刷所労組で行われました。引き続き11月20日には、北海道で協同集会の成果を発展させる目的もかねて、黒川理事長の著作をもとにしたシンポジウムを開催します。

92年6月の国際シンポジウムの成果をまとめた『ワーカーズ・コープの挑戦』（日本労働者協同組合編、労働旬報社刊）と併せて、出版記念シンポジウムや学習会を各地で開催したいと思います。会員を中心に、研究者や各地の地域事業団、協同組合組織が計画立案の主体になることが期待されます。

### ③地域協同集会の開催

6月の北海道協同集会は地域における協同活動の組織や研究者を結集する足掛かりを築きましたが、報告集は所報特集号（19号、93年10月）という形で発行します。今後、所報の編集にこうした形で地方の会員や団体が当たる方式を考えていきます。

さらに、青森では10月31日に協同集会を開催します。記念講演には富沢賢二理事を予定しています。

11月13、14日には長野協同集会が行われますが、二宮厚美会員を講演者に迎えて、これまで2回にわたる協同集会の成果を踏まえつつ、地域づくりの政策を練り上げる場として準備が進んでいます。

### ④国際活動の展開

I C Aは東京大会後、原則改定論議を開始して

いますが、部門別委員会であるCICOPA（労働者生産協同組合委員会）でも労働者協同組合の立場から原則改定論議に加わるべく各加盟組織にたいして討論の組織と意見の集約を求めています。本年9月のCICOPA総会を経て、94年7月の同大会が予定され、ここで最終的な意見の集約が行われて、95年春のICAマンチェスター大会で原則の改定が決定されます。

研究所では、労働者協同組合連合会とも協力して、とりあえずCICOPA大会への「日本からの提案」をまとめたいと考えています。そのために、各種国際協同組合関係の諸文書・資料の翻訳、研究を進めながら、提案文書取りまとめのための「ワーキング・プロジェクト」を発足させます。座長には富沢賢二理事、事務局担当には菅野専務理事が当たる予定です。

#### ⑤法制化問題プロジェクトの再開

労働者協同組合全国連合会のICA加盟を契機として、労働者協同組合と「新しい協同組合」の法制化要求の機運が高まっています。これまで、事業団・労働者協同組合連合会は主に税務・財政問題の視点から法制化問題研究会を行ってきましたが、現行法制の積極的活用も含めて、労働者協同組合や「新しい協同組合」の公共的役割を鮮明にしつつ、その社会的認知と確立に必要な法制度、税制度上の権利・義務関係について整理し、要求や運動方向を明確にしていく必要があります。

政策研究集会第3分科会の世話役メンバーを中心に、新たに法制化問題プロジェクトを発足させます。また、政策研究集会第3分科会の報告も含めて、これまでの議論を整理して法制化問題での「資料集」を発刊します。

#### ⑥高齢者協同組合、福祉サービス協同組合づくり

労働者協同組合の高齢者協同組合づくりと連携して、地域での政策を検討します。

また、別掲記事のように、東京都の認可を受けて、10月から「ホームヘルパー養成研修講座」がスタートします。これを一つのひな型として、各地の事業団や会員による同様の取り組みを援助し

ていきます。

## 研究会・集会のお知らせ

### 【第16回「労働組合運動と協同」研究部会】

- 1993年11月4日（木） 18：30
- 明治大学神田駿河台校舎、研究棟4階会議室
- 報告：中川謙（ネッスル日本労働組合・書記長）  
「労働争議から労働者協同組合運動への展開へ」

### 【青森県の協同を問う集会】

- 1993年10月31日（日） 青森市内を会場に
- 全体講演：富沢賢治（一橋大学教授、日本協同組合学会会長）
- 内容詳細はおつてお伝えしますが、お問合せは次の所へ。青森県中高年雇用福祉事業団（担当：福士吉之助）TEL0177-73-6135

### 【考えてみよう長野での協同を、第3回集会】

- 1993年11月13日（土） 14：00  
見学会「南牧村一在宅ケアの生きるまち」  
鹿教湯温泉で交流、宿泊
- 11月14日（日） 9：30～16：00 小諸市内  
全体会 基調報告：内山哲朗（工学院大学）  
記念講演：二宮厚美（神戸外国語大学）  
実践報告も行ない、午後は分科会
- 問合先：長野中高年雇用福祉事業団（小沢房生）  
TEL0262-63-2338、長野県民生活協同組合（祖父江哲一、清水久美子）TEL0262-23-0530、または協同総研へ

### 【北海道・労働者協同組合を考えるシンポジウム】

- 1993年11月20日（土） 札幌市内
- 黒川俊雄氏を招き、著作『いまなぜ労働者協同組合なのか』をもとにしたシンポジウムを開催。
- 問合先：北海道建設企業組合連合会（担当：竹下満高）TEL011-786-1881、または協同総研へ
- 6月に開催された北海道協同集会の記録は「協同の発見」10月号として特集し、増頁で発行します。

## 協同総合研究所主催 『ホームヘルパー養成研修講座』のお知らせ

### 《主催者》

- 協同総合研究所 〒169 東京都新宿区高田馬場4-2-31瀬古ビル 電話03-5389-6401  
 運営事務局（高齢者福祉研究プロジェクト）：森山千賀子、前川禮太郎、広瀬謙一

### 《実施要領》

- ホームヘルパー3級課程・40時間（この分は必修です）。別途特別講座を開催。  
 ○研究所の会員関係、労働者協同組合の組合員、地域住民等を対象に、首都圏域を中心に募集。  
 ○募集定員は25名です。  
 ○受講費用、33,000円（税込、下記のテキスト代は含みません）。  
 ○テキストは『ホームヘルパー養成研修テキスト3級課程』（厚生省監修、長寿社会開発センター発行、2500円）を使用します。東京都の認可が指定された場合、東京都よりテキストは現物支給されます。  
 ○申込、お問合せは協同総合研究所まで。詳細は折り返しご連絡します。9月30日（木）締切。

### 《講座内容》

- 以下の一覧で実施します（表は講義名、講師、時間、内容の順に記載）  
 ※なお、この研修講座は、東京都のホームヘルパー3級養成講習の認可を申請中です。

◇10月9日（土） 東京芸術劇場（東京都・池袋駅西口）◇

開 講 式	オリエンテーリング 主催者より	9:30~10:00 0.5時間
①社会福祉入門 (講義)	西沢 秀夫 (日本福祉教育専門学校/講師)	10:00~12:00 2時間
【内容】 1)社会福祉サービスの役割 2)ホームヘルプサービス制度の歴史、意義、事業概要 3)社会福祉サービスの担い手としてのホームヘルパーの役割 4)ホームヘルプサービスの利用者と援助方法、他サービスとの関連		
②障害者の福祉 (講義)	亀山 幸吉 (淑徳短期大学/講師)	13:00~15:00 2時間
【内容】 1)障害の概念、障害者の現状、障害者福祉等の役割 2)障害者福祉制度、法制度の概要 3)障害者福祉サービスの種類と内容 4)地域社会における障害者問題		

③高齢者・障害者の心理 (講義)	発達心理学の分野 (交渉中)	15:15~17:15 2時間
【内容】 1) 老化をふまえた高齢者の心理、障害と障害者の心理 2) 高齢者、障害者に対する心理的支援について 3) 以上の具体的な事例研究		

◇10月23日(土) 東京芸術劇場 (東京都・池袋駅西口)◇

④介護概論 (講義)	岩橋 成子 (総合福祉推進財団/講師)	10:00~12:00 2時間
【内容】 1) 介護の理念、目的 2) 介護の技法の基本 3) 日常生活の介護について		
⑤医学基礎知識 (講義)	小池 保子 (健和会柳原病院/医師)	13:00~15:00 2時間
【内容】 1) 高齢期の身体機能の特徴 2) 老人性疾患の基礎 3) 障害の種類とその原因		
⑥家事援助入門 (講義)	田中 啓子 (ホームヘルパー)	15:15~17:15 2時間
【内容】 1) 家庭生活の経営と管理 2) 食生活、被服、住居等の高齢者、障害者のニーズ		

◇11月13日(土) 東京芸術劇場 (東京都・池袋駅西口)◇

⑦対人援助技術 (講義)	木下 安子 (白梅学園短期大学/教授) ナーシングホーム寮母、ホームヘルパー	10:00~12:00 2時間
【内容】 1) 高齢者、障害者の自己決定の重要性と援助の原則 2) 高齢者、障害者に対する相談のすすめ方 3) 高齢者、障害者に必要なレクリエーションの視点		
⑧高齢者等家庭訪問技術講習 (実技)	同 上	13:00~17:00 4時間
【内容】 1) 家庭訪問の技法 2) ロールプレイによるサービス提供とケース管理方法 3) 対話の進め方、初回訪問、利用者との人間関係、訪問技法等の修得		

## ◇11月27日(土) 白梅学園短期大学(東京都・小平市) ※予定◇

<b>⑨介護技術</b> (実技)	木下 安子 (白梅学園短期大学/教授) 坂林 照子 (元病棟ヘルパー、労働者協同組合センター事業団)	9:00~18:00 8時間
<b>【内容】</b> 1) ロールプレイによるサービス提供とケース管理方法 2) 介護の過程に従って、高齢者等の介護に関する具体的な技術の理解 3) ベットメーカー、寝衣交換等のサービス提供とケース管理方法の修得		

## ◇12月10日(金) 東京白十字(東京都・東村山市) ※予定◇

<b>⑩施設見学実習(A)</b> (実習)	デイサービスセンター	13:00~17:00 4時間
<b>【内容】</b> デイサービスセンターの見学、実習を通じて、在宅福祉サービスの機能と状況、介護のあり方を理解する		

## ◇12月11日(土) 東京芸術劇場 東京白十字(東京都・東村山市) ※予定◇

<b>⑪高齢者の福祉</b> (講義)	太田 貞司 (帝京平成短期大学/助教授)	9:30~11:30 2時間
<b>【内容】</b> 1) 高齢化社会における高齢者福祉サービスの役割 2) 老人福祉法及び老人保健法の概要 3) 地域社会における高齢者問題 4) 在宅及び施設福祉サービスの体系と、ホームヘルプサービスの関連		
<b>⑫施設見学実習(B)</b> (実習)	特別養護老人ホーム	13:00~17:00 4時間
<b>【内容】</b> 特別養護老人ホームの見学を通じて、施設福祉サービスの機能と状況、介護のあり方を理解する		

◇12月18日(土) 目黒区民センター社会教育館 (東京都・目黒駅西口)◇

<p>⑬老人食調理講習 (実技)</p>	<p>松岡 妙子 (在宅栄養士)</p>	<p>10:00~15:00 4時間</p>
<p>【内容】 1)実技をつうじた老人食等の調理方法 2)高齢者の身体機能、食事の役割 3)食品衛生、調理器具とその操作方法</p>		

◇1994年「特別講座」 ※日時と会場は未定◇

「特別講座」は必修科目ではありません。講義①は受講料に含まれますが、講義②は実費をいただきます。

<p>①特別講義 「高齢者協同組合像とホームヘルパーに望むもの」</p>	<p>日本労働者協同組合連合会より 木下 安子 (白梅学園短期大学/教授)</p>
<p>【内容】 1)労働者協同組合が提唱する高齢者協同組合の意義、その中のホームヘルプの役割 2)ホームヘルパーの専門職、コーディネイターとしての役割 3)自己の職能を發揮できる社会的受け皿づくり、社会的システムづくりについて</p>	
<p>②地域見学会「在宅ケアの活きるまち」</p>	<p>長野県・小諸佐久地域</p>
<p>【内容】 1)地域で展開される在宅介護の具体的なシステムを学び、福祉施設を見学する 2)現地の方々との交流をはかり、実際の運営方法を理解する 3)地域住民や農業協同組合が取り組む地域福祉システムを理解する</p>	

《ホームヘルパー養成研修講座の実施にあたって》

1993年9月7日 協同総合研究所・高齢者福祉研究プロジェクト

厚生省は1990年、高齢者保健福祉10カ年戦略の中で、その目玉としてホームヘルパー10万人計画をうちだした。このプランでは、ボランティアのヘルパーを地域住民の参加というかたちで組織することが目標とされている。しかし、こと人間相手の福祉にとっては、人としての尊厳を守り福祉の質を向上させる担い手の役割は大きな意味をもってきている。そのためには、高齢者の自立を支える「専門家、としてのヘルパーが本格的に育成されねばならない。また、介護などが待たなして求められる時、公的行政の制度や施策が整備されるまで要求を繰り返すだけとはいかず、現にないものは必要なら自分たちで創り出し、住民の支持を得て行政に認めさせていくような協同的な営みが求められているだろう。

このような福祉の実情の中で、今、労働者協同組合は寝たきりにならない、させないために、生活全般にわたってお互いに保障し合う新たな「高齢者協同組合」を創造しようとしている。この事業の中には福祉介護サービスも含まれ、その担い手が労働者協同組合の中に形成されることが求められてきている。

以上をふまえ協同総合研究所の「高齢者福祉研究プロジェクト」では、今春から福祉介護の担い手養成

のために、「ホームヘルパー養成講座」の企画立案に取り組んできた。会員の皆さん、労働者協同組合、全国在宅ケア研究会、東京の福祉研究会などの皆さん方のご協力を得て、別紙のような内容で13の科目と特別講座の「3級課程講座」がまとまった。この企画をたてるにあたり、次の点を重視した。

- ①在宅介護は時代が要請する緊急の課題であること。
- ②そのために福祉介護の担い手を地域レベルから広く養成すること。
- ③高齢者協同組合づくりと福祉介護事業の推進に貢献すること。
- ④ホームヘルパーは高齢者の自立を支える「専門家」であり、「よい仕事」を追求し、人間を変え地域を変えていくコーディネイターでもあること。
- ⑤高齢者の自立とともに、ヘルパー自身の自己発達も追求するという人間発達の視点に立つこと。
- ⑥講座終了者の受け皿づくりにもらみながら、その地域システムも講座のなかで追求すること。

各科目は現場・地域から学ぶ視点を大切にしたいもので、現職のヘルパー・寮母・栄養士さんたちにも講師となっただき、3級講座としては大変内容の濃いものとなった。現在、東京都に認可指定を申請中で、会場等の要件が整えば指定がおりるところとなっている。ここに講座の内容をお伝えし、周囲の方々を含め会員の皆様方の受講申込をお願いする次第です。  
(文責・広瀬謙一)

## 研 究 所 日 誌

1993年 8 月

- |   |   |
|---|---|
| <p>4日 労働者協同組合グループ、代表世話人会く<br/>東京・シアンドシー、14:00&gt;。<br/>とちぎ労働福祉事業団の活路開拓ビジョン<br/>実現化事業、事前打ち合せ会議&lt;宇都宮、<br/>13:00&gt;。</p> <p>5日 エルコープ(千葉)企画室、那須淑夫氏来<br/>所&lt;10:00&gt;。<br/>北海道協同集会、総括座談会(山田定市、<br/>中田宗一郎、菅野正純)&lt;札幌、18:00&gt;。</p> <p>6日 第3回長野県協同集会、第2回実行委員会<br/>(内山哲朗、長野県会員)&lt;長野市&gt;。</p> <p>10日 韓国信協ハンウリ生協、李健雨氏来所&lt;14<br/>:00&gt;。</p> <p>12日 93年東京自治フォーラム、教育・文化分科<br/>会打ち合せ会議&lt;研究所、18:00&gt;。</p> <p>21日 労働者協同組合センター事業団、高齢者協<br/>同組合のための東京懇談会(前川禮太郎)<br/>&lt;東京北部医療生協浮間診療所、13:00&gt;。</p> <p>23日 研究所、事務局会議&lt;研究所、10:00&gt;。<br/>青森県国民教育研究所、千田忠氏来所。</p> <p>24日 研究所、第1回研究委員会&lt;研究所、15:<br/>00&gt;。</p> | <p>25日 韓国ハンサムリンネットワーク代表、来所<br/>&lt;15:00&gt;。</p> <p>27日 『協同の発見』第17号(1993年8月号)、<br/>発行。</p> <p>28日 合成洗剤全国研究集会、ドラム式洗濯機の<br/>試作機発表&lt;神奈川・江ノ島、~29日&gt;。</p> <p>29日 関西共同印刷所労働組合の組合員研修会<br/>議、講師:黒川俊雄&lt;兵庫・淡路島、~30日&gt;。</p> <p>31日 93年東京自治フォーラム、教育・文化分科<br/>会打ち合せ会議(会員の尾花清、平塚眞樹<br/>両名出席)&lt;研究所、10:00&gt;。<br/>つげの学園設立準備委員会、金城恵忠氏来<br/>所&lt;13:30&gt;。<br/>エルコープ(千葉)、専務理事大久保隆氏、<br/>企画室那須淑夫氏来所&lt;14:00&gt;。</p> <p>~~~~~</p> <p>【事務局よりのお願い】 1993年度の会費の納入<br/>をお願いしております。個人会員12,000円、団体<br/>会員30,000円。未納の方は、同封の郵便振替用紙<br/>か、または銀行口座「富士銀行、高田馬場支店、<br/>普通口座1412357、協同総合研究所黒川俊雄」に<br/>てご入金お願いいたします。</p> |
|---|---|